

## 北海道新幹線並行在来線対策協議会 第4回渡島ブロック会議

日 時：平成28年2月16日（火）14：00～15：00

場 所：渡島総合振興局 4階 402会議室

### 【北海道交通企画課長】

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今から、北海道新幹線並行在来線対策協議会第4回渡島ブロック会議を開催したいと思います。開会にあたりまして、渡邊交通企画監よりご挨拶申し上げます。

### 【北海道交通企画監】

皆さん、お疲れ様でございます。お忙しい中、また天候も悪い中、北海道新幹線並行在来線対策協議会第4回渡島ブロック会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。いよいよ、開業まで39日となりました。待ちに待った新幹線の開業がいよいよ間近に迫ったところでございます。

道では、開業を直前に控える中で、道内外に北海道新幹線の開業を広くPRするほか、新幹線の開業効果を全道に波及・拡大させるための二次交通拡大に向けたモデル事業、こういったものを進めているところでございます。また、ここ渡島管内では二次交通に関するモデル事業の実施に大変なご協力をいただいたほか、地元の企業様とのタイアップ等を通じまして、北海道新幹線の開業PRをお手伝いいただいていることに、この場をお借りして感謝を申し上げたいと思います。

一方、今日は並行在来線の協議会ということでございますが、並行在来線の江差線（五稜郭－木古内間）につきましては、運行を担う道南いさりび鉄道が昨年6月に鉄道事業許可を取得しまして、北海道新幹線との同時開業に向けて、準備の最終段階に入っているところでございます。本日は、北海道新幹線の開業を直前に控えた現状といたしまして、新幹線開業に向けた動き、二次交通の取組、今後の並行在来線を検討していく中で、一つのベースとなる道南いさりび鉄道の状況や利用促進等、これらの3点について説明させていただき、皆様と意見交換させていただきたいと考えてございますので、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

### 【北海道交通企画課長】

それでは早速、議事に入りたいと思います。これ以降は、渡邊交通企画監の司会進行により議事を進めてまいりたいと考えております。お願いいたします。

### 【北海道交通企画監】

それでは引き続き、次第に沿って進行してまいります。よろしくごお願い申し上げます。

まず、議題（1）北海道新幹線の開業に向けた動きについて、事務局の方から説明をさせていただきます。

### 【北海道新幹線推進室主幹】

北海道新幹線の開業に向けた動きについて、資料に基づいて説明をさせていただきます。

資料1－1北海道新幹線の現況等をご覧いただきたいと思います。1の北海道新幹線の主な工事状況についてですが、新青森－新函館北斗間につきましては、トンネルや橋梁等の土木工事とともに、新幹線の運行に必要な電気・軌道工事なども全て完了しております。先週末の13日（土）と14日（日）には、一般向けの試乗会が行われており、定員3,000人のところ、9倍を超える申し込みがあったということで、大変盛況であったと伺っているところでございます。なお、新青森－新函館北斗間につきましては、開業後も工事が行われることになっておりまして、青函共用走行区間におけ

る平成30年春の一日一往復の新幹線高速化に対応するため、共用走行区間における防音壁や緩衝工の設置工事を実施する予定となっております。また、新函館北斗―札幌間につきましては、平成42年度末の完成に向けて、これまでに村山トンネル（北斗市）、立岩トンネル（八雲町）、昆布トンネル（ニセコ町）など、7つのトンネルで工事が実施されております。トンネル工事にあたりましては、トンネル掘削土の受入地確保が不可欠でありますけれども、ご出席の皆様の受入地確保に向けた取組によりまして工事が進められていることに、感謝申し上げる次第でございます。来年度、平成28年度につきましては、現在発注されておりますトンネル工事を中心といたしまして、本格的な掘削工事が行われますとともに、トンネル以外の明かり区間などの調査・設計が行われる予定であります。建設主体の鉄道・運輸機構の方から情報が入り次第、皆様へご連絡したいと考えておりますので、よろしくごお願い申し上げます。

次に、資料1―2になります。平成27年度新幹線開業関連の取組状況について、ご説明いたします。1の道内でのPR活動といたしまして、これまで全道各地でのお祭りやイベント会場でのプロモーションを展開してきております。具体的には、開業日100日前を祝う記念イベントを昨年12月16日に函館市内で開催したほか、札幌雪まつりでは大通り会場で新幹線大雪像をつくるとともに、プロジェクションマッピングを実施し、国内外から訪れる観光客に対し開業をPRしたところでございます。また、このプロジェクションマッピングでも使用しておりますが、ロックバンドGLAYによる北海道新幹線イメージソング「Supernova Express 2016」を制作していただきまして、幅広い層の方々に新幹線開業について関心を持っていただくきっかけとなったところでございます。次に2の道外プロモーションについては、観光振興機構と連携して進めておりまして、これまで東北交流イベントでのPR活動や、ツーリズムEXPO、1月には函館市のご協力をいただき、ふるさと祭り東京への出展など、プロモーションを展開してきております。特に、昨年11月13日には、東京駅構内を北海道一色で染め上げる東京駅スペシャルジャックのオープニングイベントを開催し、東京駅を利用する多くの方々に北海道の魅力をお伝えしたところでございます。さらに、山手線の車体広告や、開業直前キャラバン隊による新幹線沿線地域でのPR活動などを実施いたしました。なお、これらは道が参画したPR活動でございますが、各自治体や関係団体による道内外のPR活動も相当数に上るものと承知してございまして、関係の皆様方のご尽力に感謝申し上げますとともに、開業日に向けて、さらに一体となって取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

資料2枚目に移りまして、その他の取組といたしましては、青森県との共同事業といたしまして、3の津軽海峡交流圏構想を推進しており、木古内町と青森市において、住民参加型イベントである圏民ショーを開催したところでございます。また、1月25日には東京都内のホテルにおきまして、在京の旅行関係者やマスコミを対象に、青森県と北海道の知事によるトップセールスセミナーを開催し、両道県の観光や食、文化の魅力をアピールいたしました。さらに、4の東北・北関東地域との交流促進といたしまして、首都圏や東北で発行される情報誌などを活用して、新幹線沿線地域に向けた効果的な情報発信を実施しております。また、5の民間企業等とのタイアップによる取組といたしまして、開業PR商品の開発・販売を進めており、1月末時点で109社269点のアイテムが作られており、現在も問い合わせが相次いでいるところでございます。次に6の開業前夜祭、開業前日の情報発信でございますが、3月25日に函館市内の金森倉庫群におきまして開業前夜祭を開催いたします。プロジェクションマッピングや音楽ライブ、花火打ち上げなどで開業前夜を盛り上げたいと考えております。また、同じく3月25日に全国紙の紙面広告と東北新幹線沿線地域での折込広告を実施し、新幹線開業を大きくアピールいたします。次に7の開業当日の式典、祝賀会、歓迎イベントでございますが、開業日の3月26日に函館国際ホテルにおきまして、沿線自治体・JR・鉄道運輸機構・青森県などとの連携により、北海道新幹線及び道南いさりび鉄道竣工開業式・祝賀会を開催いたします。国土交通大臣や国会議員をはじめ、道内の行政機関、経済団体などへご案内し、伝統芸能の演舞などで、

北海道新幹線開業を盛大に祝う予定であります。また、新函館北斗駅前におきまして、北斗市と道の共催により歓迎イベントを予定しております。飲食・物販の出店や、ステージイベントで到着客のおもてなしと、道内各地の魅力を効果的に発信していく考えでございます。なお、函館駅、木古内駅、七飯町の大沼公園駅の各駅におきましても歓迎イベントが予定されており、これらのイベントが相乗効果を持って、新幹線開業を最大限に盛り上げていきたいと考えております。

次に、資料1-3ですが、開業前日及び開業日の主要行事についてご説明いたします。この資料は、開業日前日と開業日の流れを整理したものです。開業日となります3月26日は、新函館北斗駅と木古内駅におきまして、一番列車出発式、到着列車歓迎セレモニーを行いまして、続いて函館駅におきましては、函館ライナーと道南いさりび鉄道の出発式が開催される予定となっております。その後、12時半からは新幹線・道南いさりび鉄道開業記念祝賀会、15時からブルーインパルスによる展示飛行が予定されております。この他にも、各市町で官民による歓迎イベントが予定されており、北海道にとって歴史的な日を道民挙げてお祝いしたいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。資料の説明は以上となります。

#### 【北海道交通企画監】

ただ今、資料1-1から1-3まで事務局から説明がありました。ご案内の部分も多いかと思えますけれども、せっかくの機会でございますので、情報共有をさせていただいたところでございます。今、ご説明いたしました内容につきまして、何かご質問、ご意見等あれば、いただきたいと思えます。

#### 【長万部町長】

先ほどの説明の中で、大沼公園駅でも開業イベントというお話がございましたけれども、長万部でも、新函館北斗駅からJRの特急で通過するお客様が来るのかなと思っております。駅前に3月26日までイルミネーションを飾って機運醸成を図ろうとやっておりますが、そういった各町村に対してイベントを開催する、しないを照会するとか、申し込みがあればどういう形であるか、例えば応援をするという話にはならないのですか。

#### 【北海道交通企画監】

今のご意見は、それぞれの沿線、この新函館北斗駅周辺だけではなく、さらに沿線の方に在来線を使ったアクセスがなされていく中での様々な取組についてのご意見でございましたけれども、事務局の方から発言等がありますか。

#### 【北海道新幹線推進室主幹】

照会とか集約といったところは、私の方では承知していない部分がございます。北海道新幹線推進室開業推進グループで対応をさせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

#### 【北海道交通企画監】

情報のあるところ、あるいはまだ入っていないところ、つかみ切れていないところ、色々あると思えますので、改めてご意見を踏まえまして、各自治体での取組について、把握をさせていただき、効果的なPRができるように努めさせていただきます。他に、何かございますか。

(発言等なし)

## 【北海道交通企画監】

よろしいですか。最後にまた、お時間を取ります。それでは、議題（２）二次交通の取組について、説明してください。

## 【北海道交通企画課長】

それでは資料２－１をご覧ください。新幹線駅からの二次交通の整備状況の概要ということで、ご報告を申し上げます。まず、四角の上の方でございますけれども、道南における移動といたしまして、ＪＲ北海道が新函館北斗駅から函館駅にアクセス列車を運行しまして、一日１６往復ということでございます。さらに、この資料にはございませんけれども、アクセス列車以外にも新函館北斗駅に停車するというので、情報をいただいているところでございます。さらに、二つ目のマルでございますが、函館バスなどが、函館や大沼、鹿部、江差など各方面に路線バスを運行する予定でございます。その下でございますけれども、函館タクシーが函館市内の定額タクシーを運行するというので、情報をいただいております。それから大沼交通なども観光バスや観光タクシーを運行すること、函館帝産バスが新函館北斗駅と函館空港を結ぶ路線バスを運行する予定ということで聞いてございます。その下、道南から道内各地域への展開ということでございますけれども、ＪＲ北海道では、新函館北斗駅から札幌駅間に特急列車を運行しております。今、スーパー北斗と北斗が９往復ですが、３往復増やしまして、１２往復ということで聞いてございます。それから、二つ目のマルでございますが、都市間高速バスについても、新函館北斗駅を経由するというので聞いてございます。それから、新幹線新函館北斗駅から登別などに企画観光バスを運行する予定ということで聞いてございます。空については、四番目のマルでございますけれども、函館空港から丘珠空港、新千歳空港での乗り継ぎ、さらには札幌圏での鉄道の乗り継ぎによりまして、道東・道北への展開を促進するというので、ＦＤＡの直通チャーター便により展開されるモニターツアーなども実施したところでございます。その下には、新函館北斗駅発着の二次交通の整備状況、さらにもう一枚めくっていただきまして、２ページ目の上の方には木古内駅からの二次交通の整備状況が記されておりますので、後ほどご覧いただければと思います。今後のスケジュールでございますけれども、２月には二つ目のマルにございます新幹線二次交通ポータルサイトを開設し情報発信を行っていく予定となっております、３月の開業を迎えたいと考えてございます。

次に資料２－２をご覧ください。北海道新幹線二次交通等整備事業についてということで、二次交通の試験運行の状況をご報告申し上げます。まず、この事業の概要でございますが、一番目にございますとおり、新幹線を利用して来道する観光客を地域に呼び込むためということで、地域の関係者が中心となって実施する需要動向の把握や試験運行について、道が支援をしていくという事業でございます。この点に関しては、冒頭、交通企画監の挨拶にもありましたとおり、地域の皆様に大変ご協力をいただいたということで、改めてお礼申し上げます。具体的には、２の取組状況というところに記載されておりますので、ご説明申し上げます。まず一番目、渡島地域におけるタクシー整備交通事業ということでございます。一番最初に、環駒ヶ岳地域における観光タクシーの検討ということでございますけれども、９月５日から１１月２１日にかけて試験運行を実施したところでございまして、利用実績といたしましては、９５台２６０名様にご利用いただいたという状況でございます。利用の実績としては、下の表にございますとおり、４つのコースがございまして、函館市街地発、大沼公園駅発、鹿部町内発、森町発ということで、それぞれ先ほど申し上げた利用実績がございまして、表のとおりでございます。そのときの利用者アンケートの結果でございますけれども、一番目のマルにございますとおり、全体の９割近い方のご利用が満足であったということで、評価をいただいております。二つ目のマルでございますけれども、立ち寄り箇所数や昼食に対する評価は低めであったということで、時間を持って余す利用者が少なくなかったのかなというようなことも分析さ

れているところでございます。それから二つ目といたしまして、新幹線の駅から定額タクシーの運行に向けた検討ということで、東北新幹線の新青森開業時などの先行事例を調査したところでございます。この調査結果を踏まえまして、函館タクシー、道南ハイヤーなど複数の事業者で、新函館北斗駅から函館市内中心部、それから湯の川などへの定額運賃の導入を決定していただいたところでございます。1枚めくっていただきまして2ページ目でございますけれども、後志、胆振、南空知でも二次交通の整備事業を行ってございますので、後ほどご覧いただければと思います。

それから、資料にはございませんけれども、ここまで簡単にバスやタクシーの二次交通の動きをご説明申し上げましたが、せっかくの機会でございますので、在来線の動きについて、簡単にご説明させていただきます。まず、皆さんご案内かと思いますが、JR北海道では、在来線に関して先ほどご紹介しました札幌までの特急の増便ということで、さらには函館までのアクセス列車、一日16往復ということとともに、全道で極端に利用の少ない駅ということで、無人駅の廃止を決定したところでございます。当管内では八雲町の鷲ノ巣駅が廃止対象となっているところでございます。さらに、全道的に普通列車の運行本数を548本のうち79本を減便していくということで、ダイヤの改正が決まったところでございます。これについては、当管内函館本線においては、全道では平均14.4%の減便であったのに対して、函館―長万部間で8.2%の減便ということで、他の管内に比べると、やや緩和された減便数になってございます。道としましては、こういった無人駅、減便の対応については、今後、地域に与える影響の把握に努めていくことが必要と思っております。道民の皆様は、視点、それから地域の立場に立って、JR北海道に既に働きかけをしているところでございますが、さらに必要な対応を行ってまいりたいと考えてございます。

それから、もう一つの話題といたしまして、在来線を利用した形で、平成29年春になりますけれども、JR東日本のクルーズトレイン四季島が北海道に乗り入れということで、皆様方もご存知かと思いますが、簡単にご紹介をさせていただきます。これは、JR東日本の発表によりますと、3泊4日のコースで、ルートとしては道南いさりび鉄道を経由いたしまして、北海道に入ります。さらに函館本線を北上いたしまして、登別まで行って、登別で宿泊をして、また新函館北斗駅まで戻ってくるということで、豪華列車が管内にも入ってくるというような情報もございます。在来線の情報として併せてご紹介をさせていただきました。

次の資料であります資料2-3以降でございますけれども、これは新幹線駅を起点とする交通ネットワークとしてまとめた資料でございます。今後の開業効果の拡大に向けまして、来道される方々に道内を広く周遊していただきたいということで、各市町村などの協力を得ながら、道内交通ネットワークの整備を進めていくための一つの目安として、資料を添付させていただいておりますので、後ほどご覧いただければと思います。資料2の説明は以上でございます。

#### 【北海道交通企画監】

今、二次交通の関係の説明、さらに資料はなかったのですが、並行在来線を含めた在来線を取り巻く厳しい話、四季島のような明るい話題も含めてご説明させていただきました。今の内容につきまして、何かご質問、ご意見等があれば発言をお願いしたいと思います。

(発言なし)

#### 【北海道交通企画監】

それでは、議題(3)、冒頭でも申し上げましたけれども、並行在来線の対策を考えていくにあたりまして、おそらく一つの基準になる道南いさりび鉄道がいよいよ開業ということでございます。経営のことについてはご案内のことだと思っておりますけれども、その辺に若干触れながら、利用促進等につい

て事務局から説明をお願いしたいと思います。

### 【北海道交通企画課長】

それでは、資料3-1をご覧ください。道南いさりび鉄道地域応援隊の設立についてということで、まず、最近の道南いさりび鉄道を巡る動きをご紹介申し上げます。この地域応援隊でございますけれども、沿線地域における官民が一体となりまして、利用促進に向けた具体的な行動を行う組織として、平成27年11月13日に設立をされたところでございます。下の体制のところでございますけれども、沿線の3市町の推薦によりまして、官民合わせて15名の応援隊員が選出されたところでございまして、その名簿は2枚めくっていただきました3ページ目に、参考として、バラエティに富んだメンバーが参加していただいておりますので、後ほどご覧いただければと思います。そのページの一つ前、2ページ目をご覧ください。応援隊の活動ということで伺っております内容でございますけれども、真ん中の内容のところでございますとおり、平成28年度における各市町の活動状況ということで、応援隊がどういった活動を地域において展開していただくかというのを、今、まさに協議していただいている真最中でございます。さらにも一つ、3月26日の開業日の記念行事の実施内容についても、現在ご検討いただいている状況でございます。

これが、今の応援隊の状況でございます。さらに次のページでございます3-2の資料をご覧ください。道南いさりび鉄道では、「いさりび観光列車ながまれ号」を2月5日に発表しました。これは、道南地域の食や観光、文化といった地域の魅力を広く発信する列車ということで、道の方から、その整備の補助をさせていただいたところでございまして、車両の整備については、道南いさりび鉄道は車両を9両保有しておりますけれども、そのうちの2両を観光利用にも使用できるタイプに改造したものでございます。「いさりび観光列車ながまれ号」については、今後、5月下旬から月2回程度の運行される予定と聞いてございまして、一般の乗客が乗車する定期運行の中でも地域情報発信等を展開する予定と聞いてございます。さらに、観光列車の運営については(株)日本旅行に委託する予定と聞いてございます。その他に車両のデザインも資料に載せております。

次に、資料3-3をご覧ください。企画切符や旅行商品の販売についてということで、道南いさりび鉄道に関連いたします企画旅行商品の状況を報告いたします。まず、一番最初にある函館旅するパスポートでございますが、これはJR北海道が発行しておりますパスポートの対象エリアの中に新たに道南いさりび鉄道を追加して販売される予定でございまして、このパスポートは二日間乗り放題ということで、フリーエリアの中ではここにありますお値段の中で自由に乗り降りができるという商品でございます。2番目、江差と松前周遊フリーパスということで、これについては道南いさりび鉄道が周遊エリアに入っているわけではないのですが、このフリーパスを持った希望者には道南いさりび鉄道の割引切符を販売するというので、連携した取組が進んでいるところでございます。それから1ページめくっていただきまして、2ページ目ですが、3番目といたしまして、青春18きっぷ、これはJR6社が発売しているものでございますけれども、これについては奥津軽いまべつから木古内間の新幹線と、さらには道南いさりび鉄道の区間の乗車が可能ということでございまして、こういったものからも、本州の鉄道ファンの方の集客が期待できると考えてございます。その他といたしまして、道南いさりび鉄道の乗車をテーマとした旅行商品も一部旅行会社では発売されておりますし、それから道南いさりび鉄道を利用しました鉄道旅などを紹介する雑誌等も増えているところでございます。

資料4は、並行在来線対策関係の要請状況ということで、これは後ほどご覧いただければと思います。さらに、先進事例ということで、資料5として北陸新幹線開業に伴う並行在来線各社の状況についての資料をまとめてございますので、後ほどご覧ください。

資料6ですが、これは道南いさりび鉄道の経営計画でございます。簡単に触れさせていただきたい

と思います。資料6の1ページめくっていただきまして、2ページ目の並行在来線経営計画の概要というところをご覧ください。先ほどご説明申し上げましたが、道南いさりび鉄道において地域も含めました積極的な利用促進策を展開している背景ということで、概要をご説明させていただきたいと思っております。まず、資料中段のⅡ経営区間に関する事項ということでございます。道南いさりび鉄道の経営区間の概要といたしまして、一日あたり上下37本、2173人を輸送しておりまして、貨物列車も一日上下51本が運行されている線区でございます。将来的な旅客需要予測としましては、10年後には2,173人が1,805人と、16%の減少が見込まれている会社でございます。1ページめくっていただきまして、3ページ目の下の表をご覧ください。5番目の収支状況のところでございますけれども、この表が開業後10年間の累積の収支予測を示したものでございます。この表の一番下でございますとおり、道と沿線市町の実質負担額、これはいわゆる赤字相当額になりますけれども、先ほどの収支予測からいたしますと、10年間で23億円程度の公的負担が見込まれる会社でございますので、そういった背景もございまして、先ほど冒頭で申し上げました、会社の方では開業当初から利用促進策を積極的に展開されているという状況でございます。私からの説明は以上でございます。

### 【北海道交通企画監】

ただ今、この度開業を迎える道南いさりび鉄道に関するご説明がありました。厳しい経営状況の中、様々な工夫をして、スタートから少しでも利用を増やしたいということで、鋭意取り組んでいるところでございます。また、今ご説明の中でありました参考資料5、北陸新幹線開業に伴う並行在来線各社の状況ということで、これにつきましても、引き続き私どもで実際の状況、どのくらいの利用がなされていくか、そういったものにつきましても引き続き情報収集をした上で、皆様方にもご提供させていただきたいと思っております。ただ今、一連のご説明につきましても、ご質問・ご意見等があれば、発言をお願いいたします。

### 【七飯町長】

私どもには、現時点で直接関係はないのですが、今度、小樽から函館まで廃止になったときには道南いさりび鉄道が前例になっていくということですね。色々な企画を出していさりび鉄道に沢山乗ってもらおうということで、割引切符など色々な企画があるようですが、本州から来るお客様は、Suicaカードとか、Pasmoカードを持っているので、そういったものが使えなければちょっと降りて別の列車に乗ってみようと思わないのではないのでしょうか。例えば、先ほどご紹介のあった「いさりび観光列車ながまれ号」に乗ろうと思っても、降りたら現金で切符を買わないと乗れないということにならないよう、SuicaなりPasmoなり、あるいはKitacaカードを使えるようにするべきではないでしょうか。この区間は、JR北海道が運行する鉄道であるにも関わらずkitacaカードも使えません。利便性というのはお客様の利便性が高まることであって、鉄道事業者あるいは第三セクターの利便性が高まるということではありません。利用者の利便性が高まる方法を、もう少しいさりび鉄道でやって欲しかったと思っております。機械を導入することは簡単ではないと思っておりますけれども、開業に間に合わなかったから良いのではなく、開業には間に合わなかったけれどもできるだけ早くそういった取組を進めるといふ方針は取れないのでしょうか。というのは、それが次の小樽－函館間の第三セクターの鉄道にもしっかり使えるようにならないと、お客様の利便性が向上せずに、ますます乗らないということになるからです。そういう意味では、北海道ではJR北海道に取締役を出しているのですから、そういうところで十分に意見を反映しているのでしょうか。していないとすれば、是非、これからでも良いのですから、北海道からしっかりそういうことをJR北海道に意見を出していただきたい。それが私の意見です。

それともう一つ、先ほど長万部町長も発言しておりました資料1－2の2枚目にある新函館北斗駅

における北斗市との連携による歓迎イベントの実施についてです。北海道と北斗市が連携し、道内各地のPR、飲食・物販ブースの出店と記載されています。木古内駅では、西部4町と檜山5町の9町で盛り上げていますので、こちらに来てくださって言うわけにはいきません。木古内駅がありますので。一方、新函館北斗駅は、道南に二つあるうちの一つの駅ですけれども、ここが終着駅です。これはやっぱり、全国で一番注目される駅だと思っています。そこで何かしらやりたいけれども、参加するものがないから、じゃあこの駅に来るお客様に対して歓迎の意を示そうという動きになった際、本来であれば新駅の新函館北斗駅に皆さん集まってきてください、なんかやりましょうよという話になれば、それは本当であれば駅でやるべきだと思うのです、私は。そして、北斗と長万部と渡島の幹部がそこに集中するような。既に開業の39日前ですから難しいとは思いますが、こう言ったら悪いですけど一体感がないですよ。今日は、本来であれば並行在来線の対策協議会ですから、そんな話ではないとは思いますが、最初のICカードの話は並行在来線に馴染む話かもしれないですけど、これが39日前になって、じゃあこういう風にしましょうとはならないということが、心の底になんか引っかかるものがあるのです。

#### 【北海道交通企画監】

ありがとうございました。特に、後段のお話について、今日は並行在来線の協議会ではありませんけれども、私どもでこういった資料を用意して、ご説明をしておりますので、ご意見をいただくことは全く問題ないと思っています。せつかくですから、まず1点目のSuica、Kitaca、Pasmo、こういったICカードによる利便性の向上策について、事務局で説明できることはありますか。

#### 【北海道交通企画課長】

今、町長が仰ったご意見の中で、色々な形で本州など外の需要を取り込んでいくという意味では、ICカードによる利便性の向上は最大の武器ではないかと考えてございます。ただ、現実の状況といたしまして、Kitacaとの連携といった設備投資を考えますと、道南いさりび鉄道で直ちに対応できるという状況になってはおりません。この度のお話も含めまして、今後、先ほどの利用促進策を拡大していただき、収益を伸ばしていただくような努力をやっていただきながら、その中でさらに、こういった利便性の向上をして、お客様を、需要を取り込んでいただくというようなことも含めまして、道南いさりび鉄道における将来的な課題としてご検討いただけるようなことも含めて、お伝えをしていきたいと考えてございます。

#### 【北海道交通企画監】

この件については、現在、JR北海道では需要と供給のバランスの問題、設備投資の問題があると思いますが、JR北海道でもそういう形になっていないという中では、やはり、道南いさりび鉄道に頑張っていただくという形になるのでしょうか。

#### 【北海道交通企画課長】

はい。現状としてはそういう状況になるかと思えます。

#### 【七飯町長】

JRが設備投資できないものを、道南いさりび鉄道が設備投資なんかできるのですか。

#### 【北海道交通企画監】

いや、難しいでしょうね。



### 【七飯町長】

逆ですよ。今、私は、道南いさりび鉄道と関係がありませんが、将来の札幌延伸の時にそのようなやり方では納得できないです。だから、J R北海道がきちんと整備した中で、どこの会社が経営するのは分かりませんが、きちんと第三セクターに引き継いでもらう形にしてもらわなかったら、小さい第三セクターの鉄道会社なんかではできないですよ。J R北海道さえ設備投資に二の足踏むものを、道南いさりび鉄道にはできないじゃないですか。ちゃんと設備更新したものを、第三セクターの方に引き継ぐという形がベストです。これから設備投資をした中で、取り残した部分だからということで、道南いさりび鉄道がJ R北海道にやってもらって良いのではないかと考えています。私どもが、小樽まで札幌延伸の後に引き継ぐものについては、そういうことではなく、事前にきちんと整備したものを第三セクターの方に引き継いでもらいたい、そういう思いでありますので、是非よろしく願います。

### 【北海道交通企画監】

お話の趣旨は分かりました。道南いさりび鉄道に関しましては、ちょっと話が戻りますけれども、今後に向けて、J R北海道と話をすべきとのご意見だということでありました。二つ目の新函館北斗駅周辺における各自治体のPRに関しては、資料は北斗市との連携により実施となっておりますけれども、その内容は必ずしも北斗市の中身だけということではないです。そのあたりを何かご説明いただけませんか。

### 【北海道新幹線推進室主幹】

先ほど七飯町長からお話のありました件につきましては、先ほどの長万部町長のお話にも通じる部分があるかと思えます。せつかくの開業日に、全道へ開業効果を波及させるという中で、七飯町長からお話のありました一体感がないということについては、大変厳しいご指摘をいただいたと思っております。ご指摘にもありましたように開業まで40日を切った中、こういった形でさらなる連携ができるのかについて、持ち帰って検討させていただければと思います。

### 【北海道交通企画監】

開業日からできるのが一番良いですけれども、本件はその後にも継続してやっていかなければならない取組だと思えますので、そういった趣旨も含めて、私どもの方で検討させていただきたいと思えます。他に何かご意見ありますでしょうか。

### 【北海道渡島総合振興局長】

補足ということでお話しさせていただきますと、先ほどのICカードのお話は皆様もご存知かと思えますが、函館市が函館バスと共同でICカード導入を検討されていまして、早ければ来年の3月ということを目処に、今、検討を進められております。そういった意味で、管内の路線バスと函館市内の市電については、ICカード化に向けた取り組みが進められているという中、当然、J R北海道に対しても、同じような取組をしていただきたいということは、これまでも、申し入れや要望等をされてきたものと考えているところですが、なかなかJ R北海道も経営状況が難しい中で、現実的にはそれに応えていただけていないという現状かと思えます。私の記憶でいきますと、札幌圏でも、実は札幌周辺の新千歳空港と小樽と岩見沢の間だけがICカードを使えるところで、実はNHKの連ドラ（マッサン）の関係で、余市町がすごくお客さんが増えた時に非常にトラブルが多く、実際にICカードで乗ったお客様が小樽を乗り越してしまうと精算するのが大変だということで、余市駅でICカード

を導入できないかというお話もありましたが、そこも結果的にJR北海道としては対応できなかったという経過があるようです。ただ、これは今、七飯町長さんからもお話のありましたとおり、利用者の利便性ということを考えれば、当然そういったことを前向きに検討していただくことも必要かと思っておりますので、引き続きJR北海道への要請等は必要なのかなと思っています。

**【北海道交通企画監】**

ありがとうございました。そのほか、何かご意見等はございますでしょうか。

(発言等なし)

**【北海道交通企画監】**

それでは、今日事務局で用意した資料につきましては、これで全てということになりますので、他に何かなければ、以上をもちまして、本日のブロック会議を終了させていただきたいと思えます。

お忙しい中、色々な意見を色々いただきまして、ありがとうございました。引き続き、よろしくお願いたします。